

## 助成事業実施報告書

団体名 東大和市レクリエーション協会

代表者・役職名 氏名 会長 飯城 徳雄

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

無料学習塾「賢治の家」

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2006年東大和市社会教育課主催のプレイリーダー養成講習会受講者でレク研究会を結成、1年後日本レク協会の公認指導者資格受領後東大和市レクリエーション協会を設立した。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

本協会は遊びとレクリエーションで市民社会の活性化を目的としています。ただし現在の子どもから学習支援や居場所支援とリンクしながら進めています。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

経済的な理由で商業的な塾に通えない小学生、中学生対象の学習塾です。教科は小学生で全科、中学生は英語と数学です。定員は全体で30名です。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

## 【年間当たりの実施回数】

政府の緊急事態宣言の為に会場の市民センターの貸し出しが禁止となりやむなく4月、5月と休塾としました。更に二回目の緊急事態宣言を受けて1月、2月も休塾としました。従って、年間45回の予定が金曜コースだけの年間31回の開催となっています。ただし、当初は6人の講師体制でしたが1名増員して7名体制として、休塾中の課題をだし質問は電話で受けるなどの形で継続支援をした。

在籍数は16名で年間延べ(6月～3月)小学生120名 中学生315名、合計435名の参加でした。

【成果】子どもの生活も心も落ち着かない1年となりましたが、学習環境を提供することで少しでも「学習習慣」をおとさないことを心がけて支援した。特に定期テスト対策に力を入れて学習の動機付けを図った。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

昨年度は3年生6名が希望した高校に合格した。本年度は3年生の在籍がなかったので高校入学対策は行いませんでした。中学1、2年生に対しては定期考査対策を重点的におこなった。特にコロナ禍の為に学校毎に定期考査はずれていたため模擬テスト指導を個別に合わせて行うことができた。

また、コロナ禍にも対応できるオンラインの開発は今後の課題である。

## 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



## 実施状況

### 東大和市レクリエーション協会の「無料学習塾賢治の家」



賢治の家は学校での補習に重点をおいています。従って1対1形式での完全個別指導です。時には1対2やそれ以上になることもあります。

今年はコロナ禍ということもあり各学校とも定期考査の日程が揃っていないので特に個別に模擬テストなどをしました。人数も例年なら20名以上もいたのですが3密を避けるということなので会場には定員の半数との制限もあり最大で12名という縛りがありました。

全員で手荒いやマスク着用は義務づけられています。



賢治の家の学習塾は市役所の子育て支援課が会場を確保してくれています。

会場は主に向原市民センターの集会室3になることが多いです。

この日は緊急事態宣言も解除されていたのですが午前・午後とも誰も借りていませんでした。唯一夜間の学習塾の為に開いていたことになります。今回のコロナ禍は市民活動に大きく影響しています。

今年はいつものクリスマス会はできなかったのですがみんなでけん玉や昔遊びをして楽しみました。